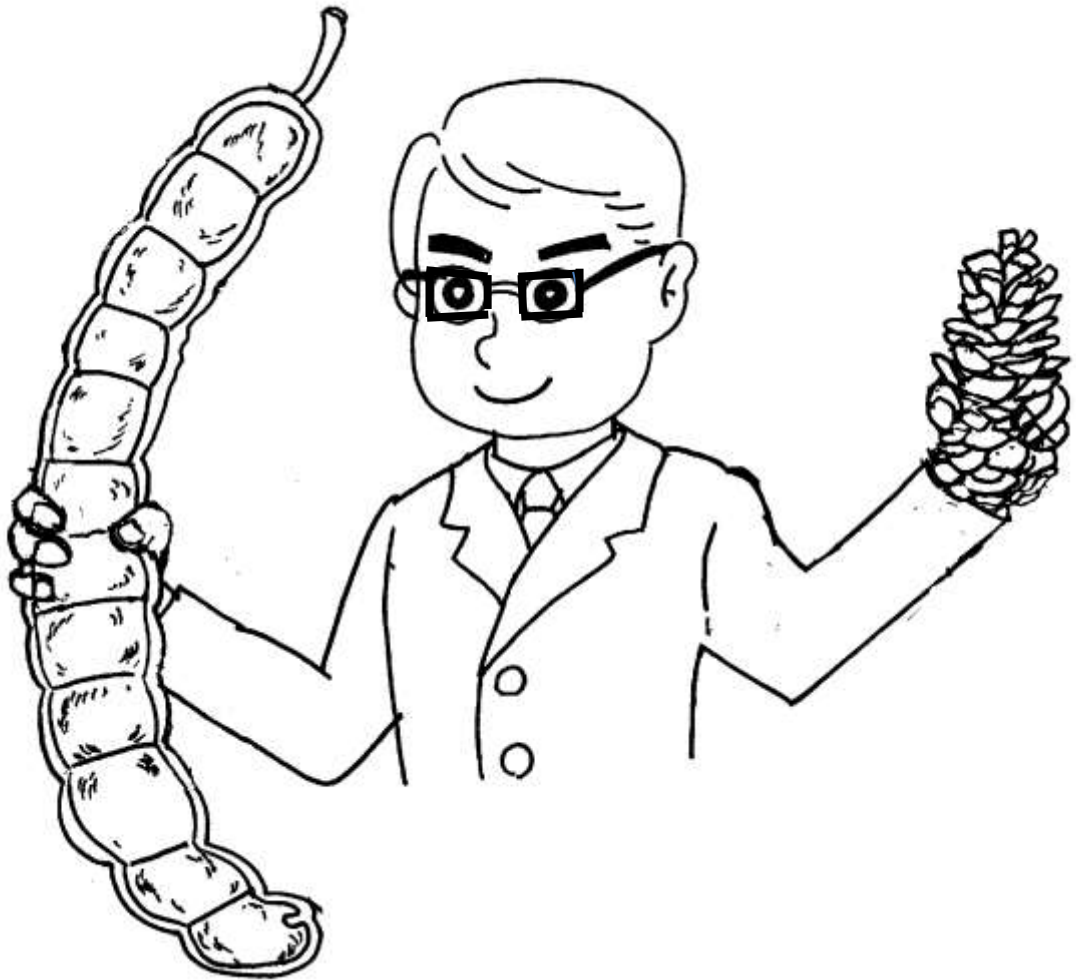


# 花ちゃん・オー君・モンタ博士・マツ博士のくわくわく対決してくる

国立市立国立第七小学校

平成29年10月11日 NO.56(456)



オー君 「うわあ！<sup>おお</sup>大きな<sup>まめ</sup>豆だ。」

モンタ博士「いいだろう。いいだろう。モンタ博士の<sup>はかせ</sup>宝物<sup>たからもの</sup>さ。」

花ちゃん 「うわあ！<sup>おお</sup>大きなマツボックリですね。」

モンタ博士「すごだろう。すごだろう。モンタ博士の<sup>はかせ</sup>宝物<sup>たからもの</sup>さ。」

オー君 「その大きな<sup>おお</sup>枝豆<sup>えだまめ</sup>みたいなものは、<sup>なん</sup>いったい何ですか。」

モンタ博士「この大きな<sup>おお</sup>豆<sup>まめ</sup>はね、『モダマ』というものなんだ。」

オー君 「『モダマ？』<sup>はじ</sup>初めて<sup>き</sup>聞く<sup>なまえ</sup>名前ですね。」

モンタ博士「いいだろう。すごだろう。<sup>おお</sup>大きいだろう。これは、<sup>せかい</sup>世界で<sup>いちばん</sup>一番<sup>おお</sup>大きな<sup>まめ</sup>豆な

んだ。<sup>にほん</sup>日本では、<sup>おきなわ</sup>沖縄などの<sup>みなみ</sup>南の<sup>しま</sup>島や<sup>とうなん</sup>東南アジア、そのほか、<sup>ねったい</sup>熱帯の<sup>ちほう</sup>地方などに<sup>み</sup>見られる<sup>しょくぶつ</sup>植物なんだ。」

花ちゃん 「その<sup>おお</sup>大きな<sup>なん</sup>マツボックリは、<sup>なん</sup>いったい何ですか。」

モンタ博士 「これはね、『<sup>はじ</sup>シュガー<sup>き</sup>パイン<sup>なまえ</sup>コウン』というものなんだ。」

花ちゃん 「『<sup>はじ</sup>シュガー<sup>き</sup>パイン<sup>なまえ</sup>コウン？』これも初めて聞く名前ですね。」

モンタ博士 「いいだろう。すごいだろう。<sup>おお</sup>大きいだろう。これは、<sup>せかい</sup>世界で<sup>いちばんなが</sup>一番長い<sup>お</sup>マツボックリなのさ。<sup>にほん</sup>日本のものではなくて、<sup>がいこく</sup>外国のものなんだ。」

オー君 「ところで、<sup>おお</sup>どうしたんですか。その<sup>えだまめ</sup>大きな<sup>お</sup>枝豆と<sup>お</sup>マツボックリを・・・。」

モンタ博士 「これはね、<sup>なんねん</sup>何年か<sup>まえ</sup>前の<sup>お</sup>クリスマス<sup>お</sup>プレゼントなのさ。」

花ちゃん 「<sup>お</sup>クリスマス<sup>お</sup>プレゼント？」

モンタ博士 「そうさ。<sup>とき</sup>クリスマスの<sup>お</sup>時に、<sup>おく</sup>奥さんに、<sup>なに</sup>何か<sup>い</sup>ほしいものは？<sup>い</sup>と言われてね。」

オー君 「それで・・・。」

モンタ博士 「<sup>とく</sup>特に<sup>お</sup>ほしいものはないな<sup>お</sup>あと思ったけどね、もし、<sup>て</sup>モダマが<sup>はい</sup>手に入れば<sup>う</sup>うれしいな<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>と思ってね。いろいろと<sup>しら</sup>調べてね、<sup>お</sup>インターネットで<sup>か</sup>買えるということが<sup>わ</sup>わかったのさ。それで、<sup>おく</sup>奥さんからの<sup>お</sup>クリスマス<sup>お</sup>プレゼントということで、<sup>もら</sup>もらったというわけさ。」

花ちゃん 「それにしても、<sup>お</sup>クリスマス<sup>えだまめ</sup>プレゼントに<sup>お</sup>大きな<sup>えだまめ</sup>枝豆と<sup>お</sup>マツボックリというの<sup>は</sup>は、<sup>ち</sup>ちょっと<sup>か</sup>かわっていますね。」

モンタ博士 「でも、<sup>いま</sup>まあいいさ。<sup>ねん</sup>今から<sup>まえ</sup>20年<sup>お</sup>くらい<sup>お</sup>前に<sup>お</sup>沖縄<sup>お</sup>西<sup>お</sup>表<sup>お</sup>島の<sup>う</sup>ジャングルで、<sup>う</sup>生まれて<sup>はじ</sup>初めて<sup>み</sup>モダマ<sup>み</sup>を見て<sup>ちやうかんどう</sup>超感動してね、<sup>て</sup>ずうっと<sup>ほ</sup>ほしくてね、<sup>て</sup>やっと<sup>て</sup>手に入れられて<sup>ちやう</sup>超<sup>ちやうまんぞく</sup>うれしいのさ。<sup>はかせ</sup>超満足<sup>たからもの</sup>なのさ。モンタ博士の<sup>お</sup>宝物<sup>お</sup>なんだ。<sup>こうちやうしつ</sup>校長室<sup>お</sup>前に<sup>お</sup>置いて<sup>お</sup>おく<sup>み</sup>から<sup>み</sup>見てね。さ<sup>わ</sup>わっても<sup>もちろ</sup>もちろん<sup>い</sup>いいよ。」

## 巨大な豆・・・モダマ

モダマは、アフリカからアジアまでの熱帯と亜熱帯のマングローブ林や海岸近くの常緑樹林で見られるつる性のマメ科常緑植物です。日本では屋久島から沖縄にかけて分布しています。大きなマメのさやは木質で長さ1m、幅10cmにもなり、さやの中には直径5cm程度の種子が9～13個入っています(モダマの種子も持っていてモンタ博士の宝物です)。「モダマ」の種子を、海藻の玉に見立て「藻玉」と呼ばれるようになり、種子には内部に空間があり、海水に浮かぶことができます。種子が海流に乗って移動することで、モダマはその分布を広げていくことができます。日本では千葉県や新潟県の海岸まで、モダマの種子が漂着することがあります。